

2025.7.18



NPOフォーラム だより No.117

NPO法人安房文化遺産フォーラム（共同代表：愛沢伸雄、池田恵美子）

〒294-0045 千葉県館山市北条 1721-1 TEL&FAX：0470-22-8271

Eメール awabunka@awa.or.jp 公式サイト <https://awa-ecom.jp/bunka-isan/>

会員・寄付募集中！ 年会費＝正会員 A:10,000 円（総会議決権あり）・準会員 B:2,000 円・法人 10,000 円
（ゆうちょ銀行口座：00260-1-97307 名義 NPO法人安房文化遺産フォーラム）

◆ モントレー・アワビフェスティバル オンライン日米交流 ～ 太平洋をわたったアワビ漁師移民 要予約

7月23日（水）9:00～10:00 会場：ギャラリー&カフェ船形倉庫（館山市船形 1422-6）参加費 500 円（飲物付）

明治期に南房総から太平洋を渡ったアワビ漁師は、カリフォルニア州モントレーで活躍しました。1925（大正 14）年、日本の皇族・朝香宮夫妻が渡米した際、異国で活躍する日本人に寄付を贈り、翌年に日系アメリカ人市民同盟（JACL）モントレー会館が建てられました。現地では 100 年目の祝賀行事「アワビのすべて！」が企画され、日米オンライン対談がおこなわれます。館山でもその模様を上映し、皆さんで鑑賞しながらお祝いする企画をつくりました。ふるってご参加ください。

<米国> サンディ・ライドン（歴史学者・元カリフォルニア大学名誉教授）／ティム・トーマス（JACL 学芸員）

<日本> 池田恵美子（安房文化遺産フォーラム）／溝口かおり（英会話クラブサビーネ）



100 年を迎えた JACL モントレー会館



ぼっけだい

◆ 北下台ウォーキング <年金者組合 みんなで歩こう会と共催> 要予約

7月25日（金）9:00 渚の駅たてやま集合～14:00 参加費 500 円 持ち物：弁当・飲料

渚の駅たてやまと城山公園の間にある「北下台（ぼっけだい）」は、明治時代に館山で最初の公園として整備され、館山湾と高ノ島・沖ノ島を眺望する景勝地として好まれました。安全航海を祈る「琴平神社」、「正木灯台」跡、近代水産業のパイオニア「関沢明清」顕彰碑、遭難救助の碑をはじめ、中世の武士や僧侶の墓だった「やぐら」など、たくさんの歴史文化遺産を見て回ることができます。

近代彫刻の祖「長沼守敬（もりよし）」は、引退後に館山で暮らし、関東大震災で亡くなった知人の供養レリーフを製作しました。城山公園の近くにはキリスト教墓地もあり、安房地域の布教と医療に貢献した「コルバン医師夫妻」も眠っています。

◆ 戦後 80 年のつどい ～ 米軍の館山上陸と「直接軍政」を考える

9月14日（日）13:30～15:30 参加費無料 資料代 500 円（予約不要）

会場：館山市コミュニティセンター 第一集会室

1945（昭和 20）年 8 月 30 日、米占領軍の先遣隊が館山上陸しました。降伏文書調印式の翌日 9 月 3 日には正規の本隊「第 112 騎兵連隊戦闘団」3,500 名が上陸し、館山は本土唯一の「直接軍政」が敷かれました。占領地の日本人の反応を見るうえでの試金石であったと推測されます。調査報告とともに、上陸シーンの動画上映と証言の会をおこないます。



館空水上班滑走路に上陸した第 112 騎兵連隊戦闘団 1945.9.3.

館山の米占領軍上陸と「直接軍政」から 80 年

館山の「直接軍政」が歴史の闇から明らかになったのは、旧制安房中学(現安房高校)の教務日誌を見て、9月3日から生徒が出勤していないことに気づいたことから始まった。その後の調査で、「米占領軍による館山湾地区の占領」という資料(和英文)を入手することができた。敗戦直後の館山は全国唯一「直接軍政」が敷かれた地であったにもかかわらず、この極めて重要な歴史的事実が後世に知られていないことが不思議であった。以降、高校世界史教員のかたわら細々と進めた調査研究は、情報収集がきわめて困難だった。しかし 21 世紀になりインターネットが普及し、英文翻訳も簡便になったことで国際的な調査が可能となった。2015 年、「第 112 騎兵連隊」に的を絞って米国テキサス軍事博物館宛に問合せしたところ、当時のリサ・シャリク副館長から温かい励ましの言葉とともに、館山占領に関する多くの資料や写真の提供を受けた。貴重な資料は、冊子『戦後 70 年証言・調査記録集』にまとめて発行した。戦後 80 年の今年は、これまでの資料を検証しながら、調査研究をさらに深めていきたい。

NPO 法人安房文化遺産フォーラム 代表 愛沢伸雄

館山は、米軍の関東侵攻計画「コロネット」作戦だけでなく、占領計画「ブラックリスト」作戦でも上陸地点と想定されていた。第2次世界大戦の終結とその後の日本の占領をみるうえで、館山は世界史的な出来事の地であったといえる。

戦艦ミズーリ号で降伏文書調印式がおこなわれた翌9月3日午前9時30分、カニンガム准将が率いる米陸軍第8軍第11軍団第112騎兵連隊戦闘団(以下112RCTと略)は館山に上陸した。カニンガムは「米軍ニヨル館山湾地区ノ占領」6項目の指令を出し、「軍政参謀課」を設置した。占領では「一切ノ学校ヲ閉鎖」をはじめ、劇場や酒場の閉鎖、市民の夜間外出禁止などを命じ、日本本土では唯一の「直接軍政」を敷いたのである。

戦後 70 年の 2015 年、112RCT に関わる資料を有する米国テキサス軍事博物館に問い合わせたところ、館山上陸に関わる貴重な資料や写真の提供を受けた。館山での占領軍については不明なことが多かったが、解明の一步となった。

資料のひとつはカニンガムが署名した報告書であり、初公開となった。それによると、ブラックリスト作戦は8月18日に実行され、22日に112RCTがフィリピンから日本へ移動を命じられ、館山には9月3日に上陸し、拠点を築く任務が与えられた。輸送師団や第112機甲連隊は、館山の海岸を上陸拠点として1,000ヤード(900m)確保する特務を命じられた。事前に特殊部隊が機雷の掃海をし、海兵隊員を中心とする先遣隊が館山の調査活動をしていた。

112RCT は2日の午前7時に東京湾に入り、ミズーリ号の降伏調印式の光景を見ていた。翌3日は、午前3時に輸送師団が館山湾に入り、午前7時に館山航空基地の北 3.6 kmに停泊した。すでに先遣隊が館山の海岸を使用するのは困難と報告していたので、高ノ島にある館山海軍航空隊水上班滑走路が上陸地として指定された。午前7時30分に外務省の林男爵や陸軍の野村大佐、海軍の鬼塚大佐が、日本人通訳を伴い滑走路に現れた。彼らはカニンガムやスタッフとの協議のため、

輸送師団の旗艦ラバカに案内された。

日本側は、館山の陸・海軍や民間人の状況と、武装解除に迅速な行動をとっていると報告した。カニンガムからは上記6項目の占領指令に従って、日本側に最大限の協力が要請され、会談は午前9時30分に終了した。

その時刻に112RCTや機甲連隊などが波状的に上陸し、基地の周囲を占拠した。午前10時に司令部が滑走路そばの水上演習格納庫に開設され、第11軍団指揮官やウィルキンソン中將が上陸して査察した。数日前から来ていた分遣隊は任務が解かれた。司令部は航空隊本庁舎へ移され、輸送してきたもの積み降ろしは3日に終了し、翌日から市内のパトロールが強化され、館山周辺の砲台を査察し使用不能にした。海岸線の道路に沿って勝山から神戸地区まで偵察パトロールがおこなわれ、館山駅には治安部隊を配備し、館山市内には他の占領軍兵士の立ち入りが禁止された。

この事態のなかで外務省館山終戦連絡委員会の林安委員長は、カニンガムによる6項目の占領指令に驚き、すぐに政府・外務省に連絡し、米太平洋陸軍総司令部に館山の直接軍政の中止を求めた。マッカーサー「三布告」と連動したもので、岡崎勝男の迅速な行動や重光外相とマッカーサーとの会談によって、3日の「三布告」は撤回された。ただ、軍都館山の市民や旧軍人の動きに注目して占領政策のあり方を模索したと思われ、その後の館山市民の協力的な姿勢や、軍事施設の解体が順調であったことなどが契機となって変わっていったと推察される。

なお、報告書には「完全な地下海軍航空司令部が館山海軍航空基地で発見され、そこには完全な信号、電源、他の様々の装備が含まれていた」と、赤山地下壕のことに言及している。

6日には、「軍政は、米軍と市民との間に突発しそうな事件を未然に防ぐのが第一の目的」と占領軍は表明し、9月7日は学校の再開や酒場営業を許可している。こうして、直接軍政は「4日間」で解除されたのであった。

GHQの「三布告」撤回と館山の直接軍政

＜それはミズーリ号から始まった～日本の運命を分けた2日間＞

2015.5.13 NHK-BS 放送

佐野達也（テレビ制作者）

日本では8月15日を終戦記念日としているが、世界的には1945年9月2日が終戦といわれている。それは、東京湾上に停泊する戦艦ミズーリ号において降伏文書調印式がおこなわれた日である。戦争が正式に終結し、世界に平和がもたらされたはずのこの日、日本が国家存亡の危機に直面していたことはあまり知られていない。調印式から6時半後の夕刻、横浜終戦連絡事務局の鈴木九萬（ただかつ）は、GHQのマーシャル参謀次長から呼び出しを受け、重大な通告を受けた。終戦連絡事務局とは、GHQと日本政府の間にパイプ役として置かれ、日本外交の最前線を担っていた機関である。そこで告げられたのは「三布告」と呼ばれる占領政策であった。「日本国民ニ告グ」で始まり、GHQが日本政府を飛び越え国民を直接軍政下に支配しようとする内容である。

- ・布告第一号：英語を公用語とすること
- ・布告第二号：占領軍裁判所が設置され、司法権はGHQにあること（軍事裁判により死刑）
- ・布告第三号：占領軍の発行する軍用紙幣B円を日本法貨とすること

すでに軍票B円は各部隊に3億円を配布済みであり、翌3日の朝6時に「三布告」とともに公布する予定であるという。なかでも日本政府が怖れたことは、B円乱発によるインフレーションである。権力をもった占領国が経済をコントロールすることは、日本がアメリカの州のようになってしまふことである。鈴木は、「ポツダム宣言によれば、GHQは日本政府の存在を認めているのだから、日本国民に対する命令は日本政府を通してするべきだ、日本政府を通さず直接命令するのは違反である」と反論したが、「三布告」にはすでにマッカーサーの署名がされていた。降伏文書調印式にも立ち会っていた終戦連絡中央事務局長の岡崎勝男は、首相官邸に呼ばれ、「三布告」撤回の使命を託された。深夜、岡崎は横浜のホテルニューグランドに潜入し、就寝中のマーシャル参謀次長に直談判した結果、3日未明に、「三布告」公布を延期するという回答を取り付けた。午前8時、重光葵（まもる）外務大臣と岡崎はマッカーサー司令部のある横浜税関で待ち、直接交渉をおこなった。その結果、マッカーサーは「連合軍の目的は、日本国を破壊し国民を奴隷とすることではない。この問題は、政府及び国民の出方一つによる」と言い、正午に「三布告」は取り消された。日本政府は、GHQの直接軍政下に置かれることをぎりぎりまで阻止したといえる。日本の運命が分かれた2日間だったのである。

1945年9月3日、午前6時に公布予定だった「三布告」は正午に停止された。ところがこの空白の時間に、千葉県館山市では撤回されたはずの直接軍政が実施されていたのである。外交資料館の記録によれば、館山の行政を監督するのは軍政参謀課、つまり米軍であった。公的機関は閉鎖され、酒場や劇場など娯楽施設は休業させられ、夜間の外出禁止など戒厳令ともいえるべき措置がとられた。9月5日の新聞には、「館山に軍政」と報道されている。千葉県立安房高校（旧安房中学）に残る当時の教務日誌によると、9月3日に学校の閉鎖が命じられ、6日までの4日間生徒は出校停止となっている。はじめ恐怖を抱き緊張していた館山市民も、上陸した正規軍の紳士的で茶目っ気ある態度に緊張感は和み、占領は平和裏に受け入れられていったと証言している。



館山病院を視察する米軍医（右中央は穂坂与明院長・右は川名正義副院長）

